



京都府 建設業 魅力向上 プロジェクト

一般社団法人 京都府建設業協会
〒604-0944
京都府京都市中京区押小路通柳馬場東入橋町645
[TEL] 075-231-4161 [FAX] 075-241-3128

一般社団法人 京都府測量設計業協会
〒604-8151
京都市中京区蛸薬師通烏丸西入橋弁慶町234番地 MJP烏丸ビル5階
[TEL] 075-252-3101 [FAX] 075-252-3102

京都府 建設交通部
〒602-8570
京都府京都市上京区下立売通新町西入藪ノ内町
事務局 指導検査課
[TEL] 075-414-5225 [FAX] 075-414-5183

2024年10月 発行

本事業は、京都府が厚生労働省の「地域活性化雇用創造プロジェクト」の採択を受けて、京都府・京都市をはじめとする産学公・公労使の「オール京都」体制で実施する「京都の未来を拓く次世代産業人材活躍プロジェクト」の一環として取り組むものです。

KYOTOの
柱になる仕事。

建設業界の
働き方
ガイドブック



京都の建設業界丸わかりMAP

建設業界は社会になくてはならない

3つの役割を担っています。

「建物を建てる」

ビルやマンションなどの仕事や生活の場所から、駅やスタジアムなどの公共施設まで幅広く手掛けています。

「インフラ整備」

人々がより便利に、快適に暮らせるよう道路やトンネル、橋や河川などのインフラを整備しています。

「地域の安全を守る」

地震や台風、豪雨、豪雪等の自然災害にも強い街づくりをしています。また、神社仏閣などの文化遺産を守る補修作業も建設業界が担当しています。

マップ上では、京都の建設業界が造った構造物の一部を紹介します！

A 新荒河排水機場

平成26年8月、福知山市は観測以来最大の集中豪雨に見舞われ、市街では甚大な浸水被害が発生しました。それを受けて災害直後に国、京都府、福知山市により「由良川流域（福知山市域）における総合的な治水対策協議会」を立ち上げ、京都府では弘法川・法川の氾濫による被害軽減を図るための河川改修並びに由良川本川の樋門が閉鎖することにより生じる内水被害の軽減を図るための調節池及び排水機場を弘法川下流に新設しました。

B 国道423号(法貴バイパス)

京都府域の亀岡市西別院町から曾我部町に至る区間は、災害時の緊急輸送道路に指定されているにも関わらず、急カーブや急こう配が連続し、異常気象時の事前通行規制が行われる区間としても指定されています。この状況を解決し、通行車両の安全確保と緊急時にも活用できる道路にするために、バイパス道路の整備を行っています。

建設業界の魅力はココ！

世界にひとつだけの構造物ができる 魅力01

大型の建築物や、生活に欠かせない道路、河川などのインフラまで、自分なりの工夫やこだわりを反映して、そこにしかない構造物を造ることができます。

地域や利用する人の役に立てる仕事 魅力02

建設業界の仕事は、人々の暮らしを支え、社会に欠かすことのできない社会貢献度の高い仕事です。自分が携わる全ての構造物に利用者がいて、常に人々の役に立っている実感を得ることができます。

自分の仕事が地図に残る 魅力03

大きな構造物ができていく楽しみ、完成した後に地図に記される喜びは、建設業界ならではの魅力です。



C シシ伏川砂防えん堤

シシ伏川は京丹後市丹後町間人に位置し、下流域には人家や府道、市道がある溪流です。過去の降雨で発生した山間部の崩壊により谷部に土が堆積しており、今後の降雨により土砂流出の危険性が高くなっていました。近年の異常気象を考慮し、局所的な集中豪雨などに見舞われた場合にも、地域の安全や安心を確保するために、土砂災害対策工事として砂防えん堤を整備しました。

D 海舞鶴みなと橋 臨港道路和田下福井線～ 令和5年11月27日供用開始

近畿圏における唯一の日本海側拠点港である京都舞鶴港。その港と下福井地域を結ぶ海舞鶴みなと橋は、港湾施設間の移動時間を短縮し、物流の効率化を実現しました。また、物流時の一般道路の使用頻度が下がることで、付近の国道の渋滞緩和にも繋がり、周辺住民の暮らしの豊かさの向上に貢献しています。

E 文化庁・新行政棟

日本の芸術文化の振興や文化財の保存・活用、国際文化交流の振興等を使命としている文化庁は、令和5年に京都に移転してきました。文化庁の移転は明治以来の出来事であり、その移転先は日本最古の現役警察本部庁舎として使用され、文化財としても価値の高い旧京都府警察本部本館でした。さらにその北側(写真右側)には、文化庁舎としての機能を持つだけでなく、京都府庁としての庁舎機能を併せ持つ新行政棟が誕生しました。

アイコンで見る建設業界各業種の関わり

	土木業		測量設計業
	建築業		建築設計業
	土木・建築行政		

Type 1

土木業

道づくりから災害復旧まで
街を支えるスーパーマン

道路や橋りょう、トンネル、河川堤防などのインフラの新設や老朽化したインフラの補修、台風や地震などの災害によって壊れたインフラを復旧するのが土木業の役割です。安心安全な京都の街や地域の生活を支える上で、なくてはならない存在です。ICT技術が進歩する中で、建設機械の自動運転など、デジタル技術の開発が進んでいます。



Type 2

測量設計業

プロジェクトの基礎を
支える縁の下の力持ち

測量や調査、計画、設計のほか、施設の点検などを行うのが測量設計業の役割です。この業界では、UAV(ドローン)やTLS(地上レーザースキャナ)による測量が進んでおり、作業効率も大きく向上しています。高精度な測量データの活用が可能となったことで、構造物の設計においても、CADを用いた3次元モデルでの設計が進んでいます。



Type 3

建築設計業

機能性と芸術性の
二刀流

構造物をつくる場所や、その周辺の状況、利用者の属性などを踏まえて、最適な構造を提案します。設計業の中でも建築の外観や内部をデザインすることを専門にする方から、構造物の中身を設計する方、インフラを設計する方まで設計の中にも幅広い業務があります。

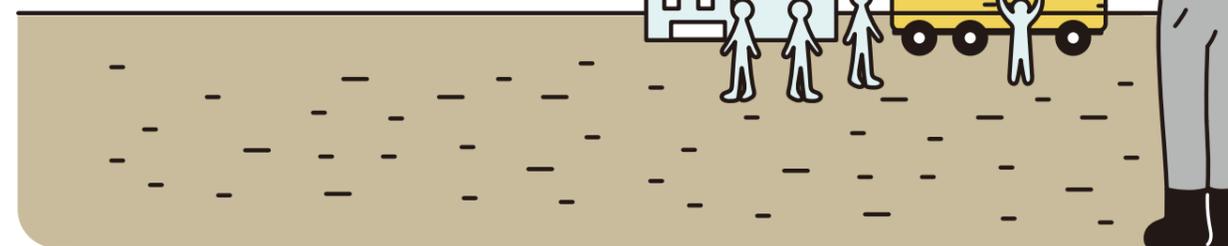


Type 4

建築業

建物づくりの
プロフェッショナル

大きなビルから住居まで建物づくりを専門にしているのが建築業です。単に建物を建てるのが仕事ではなく、実際に建物を利用する方や暮らす方のニーズに応える建物づくりが求められ、機能性や安全性なども含めて、トータル的にプロデュースしています。



Type 5

土木・建築行政

府民の声を形にする
トータルコーディネーター

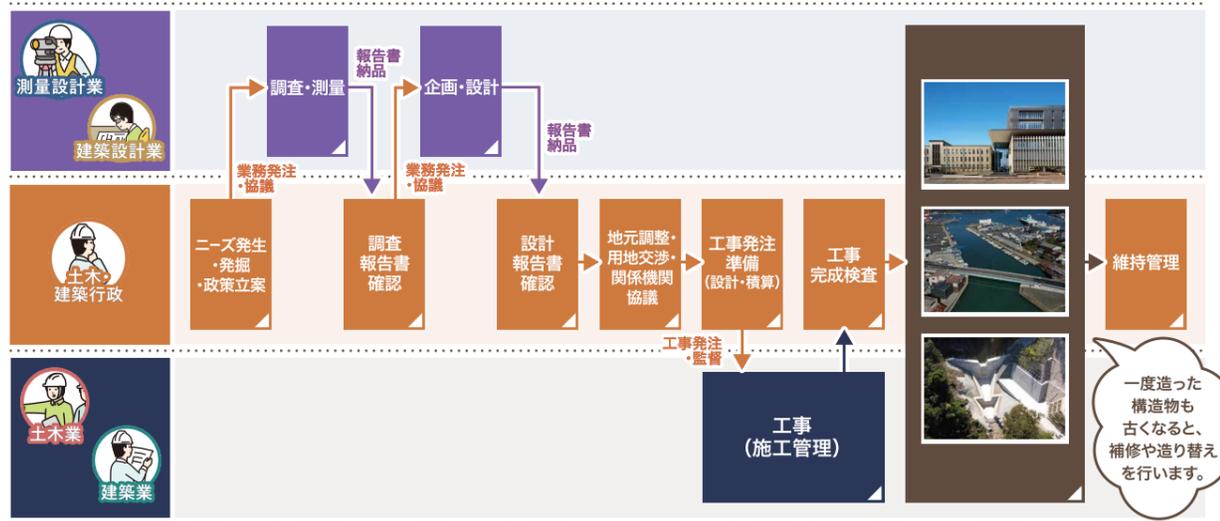
土木行政は、道路、河川、都市計画など府域の基盤整備に関する業務を行い、建築行政は、建築指導、宅地造成などの規制、住宅建設計画などの業務を行っています。予算の確保から、企画、設計、工事監督、検査、維持管理まで公共事業全般に関わる仕事をしています。



Work Flow

建設業界の仕事の流れ

一つの構造物が完成するまでには、多くの方が関わっています。
それぞれに役割があり、全員が協力することで、京都の街は造られています。



Question & Answer

建設業界のよくある質問

Q1 建設業界の仕事はなくなるかな?

建設業界の仕事がなくなることはありません。道路や橋、トンネルなどを新しくしたり、老朽化や災害時に壊れた構造物の修繕など、地域社会の安心安全を守る役割も担う建設業界は、社会がどのように変化しても必要とされ続ける仕事です。

Q2 建設業って体力に自信がないとできない?

3K(きつい、汚い、危険)に代表される建設業界は、力仕事のイメージがありますが、近年は安全面と効率面を考慮し、使用する機器や建設機械の自動化が進んでいます。

Q3 建設業界は外で仕事することばかり?

建設業界には「測量・設計・施工・管理」と様々な仕事があります。どの仕事にも外での業務はありますが、近年ではICT(情報通信技術)の発達により、建設機器の技術が進歩し、外での仕事はより効率的に進められるようになっています。

Q4 女性でも働けますか?

建設業界は男性の方が多いというイメージを持っている方もいますが、そんなことはありません。年齢や性別に関わらず活躍できる機会があり、建設現場でも多くの女性が働いています。

Q5 大学に進学するなら、どのような学部に進学すべき?

土木・建築系の学部に進学することをおすすめしています。専門の学部を卒業することで、就職後に役立つ資格を取得することもできます。

Q6 働く環境の魅力は?

建設業界では働き方改革を推進している企業が多く存在しています。希望する社員に住居を提供する企業や、誕生日休暇など特別なお休みを定める企業など、働く環境をより良くするために各企業が取り組んでいます。



建設業界に従事する先輩たちの声を聞いてみました。

PEOPLE 03

建築施工管理
國定 美穂
Miho Kunisada

施工管理の仕事は1年毎に担当する現場が変わるため、様々な上司や先輩社員の方の下で働いています。現場が変わっても、わからないことを電話で教えてもらったり、先輩の方から電話くれたりすることもあり、安心して仕事に取り組んでいます。また、若手社員は年に1度役員面談があり、そこでは社員一人ずつの声にしっかりと耳を傾けて、より働きやすい環境作りを積極的に進めてくださるので、会社からのバックアップもあり、色んな方に支えられていることを実感しながら働いています。



PEOPLE 02

測量設計業
久保 芽偉
Mei Kubo

一般的な業界のイメージと違い、女性社員比率も高く、産休・育休から復帰されている先輩社員も多いので、ライフイベントが起こっても安心して長く働ける環境だと思えます。長く働ける環境だからこそ、業務経験豊富な上司や先輩社員と仕事を進められるので、一人で悩むことはほとんどありません。そんな環境の中で、何十年先まで残る構造物の建設に関わっていることを幸せに思います。



PEOPLE 01

土木施工管理
石垣 一道
Kazumichi Ishigaki

当たり前のように使っている道路やトンネルなど生活には欠かせないインフラと土木建築の仕事は密接に関わっており、地域住民の暮らしを支える重要な仕事として、大きなやりがいを感じながら仕事をしています。社内のコミュニケーションも活発で、上司や先輩社員とも気軽に相談できる関係性なので、業務で困ったこともすぐに解決でき、現場を円滑に進めることができます。



PEOPLE 04

建築施工管理
瀧澤 朱音
Akane Takizawa

部署や年齢など関係なく和気あいあいとした雰囲気なかで働いています。丁寧に教えてくれる先輩社員の方ばかりで、困った時もすぐにフォローしてもらっています。本社での集合研修も年に数回あり、知識面でもしっかりサポートしてもらえる環境があります。建築業界の仕事は色んな方と協力して進めないと行けない大変さもありますが、自分の仕事が地図に残るという達成感、他の業界では感じることのできな大きなやりがいだと思えます。



PEOPLE 05

土木行政
三上 唯衣
Yui Mikami

工事完了後に地元住民の声を直接聞けることは大きなやりがいだと思っています。発注から完成まで工事に携わり、地元との関りも多くある中で、「工事をしてくれてありがとう」などの言葉を聞けるのは、土木行政ならではの魅力だと思います。一緒に働く先輩社員も気さくで、話しやすい方ばかりで、わからないことはいつでも聞ける環境があることも魅力ですが、新採サポーター制度といって先輩社員が1年間教育係としてついて一緒に仕事ができるので、入庁したての頃から安心して働くことができました。

